

## アートは地域でどのような力になりうるのか —まちづくりとアートの接点を考える—

日 時：2011 年 7 月 2 日(土) 13:30～17:00 (開場：13:00)

場 所：名古屋大学東山キャンパス IB 電子情報館 2 階大講義室

参加費：会員無料、非会員 1,000 円 (ただし、学生は学生証提示により無料)

申 込：不要

主 催：文化経済学会<日本>

### 趣旨

近年、地域の活性化に現代アートや音楽などの活動を連携させる試みが増えている。例えば、2010 年秋に行われた「あいちトリエンナーレ」においては、かつて繊維問屋街として栄えた長者町界隈の活性化とアートとの連携をプロジェクトの一つとして位置付けている。クラシック音楽や演劇のフェスティバルも各地で展開されるようになって久しい。こうしたプロジェクトにおいては、発表や創造の場の確保を求めるアーティストの期待と、地域の閉塞状況を何とか打開したいと考える地域の思いという異なるベクトルが場所を一つに向かい合っている。このような異種混合のつばにおいて、本当に何かの力がうまれてくるのであろうか。

今回のシンポジウムはアートの成果ではなく、アートの活動が地域の活性化に対して、具体的にどのような力になりうるのか、そのためにはどのような事を検討しておかなければならないか、アートを地域に結びつけるためにどのような評価軸が必要であるか、都市計画とどのような連動が期待されるかという点について、出来るだけ踏み込んだ討論ができることを期待している。

### プログラム

13:30-14:15 **基調講演「地域から生まれる公共性」**  
田中重好 (名古屋大学大学院環境学研究科 教授)

14:15-14:45 休憩

14:45-17:00 **パネルディスカッション**  
**「アートは地域でどのような力になりうるのか**  
**—まちづくりとアートの接点を考える— 」**

#### [パネリスト]

堀田勝彦 堀田商事株式会社 代表取締役社長 (あいちトリエンナーレ長者町プロジェクト)

村山顕人 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 准教授 (アートプロジェクトと都市計画)

内藤美和 オフィスマッチングモウル (三河・佐久島アートプラン 21)

太田浩史 東京大学生産技術研究所 講師 (東京ピクニッククラブ、カルチャー10)

石川道政 美濃市長 (美濃和紙あかりアート展と伝統産業の活性化)

野田邦弘 (司会) 鳥取大学地域学部地域文化学科 教授 (文化政策、創造都市論)

### お問い合わせ先

名古屋大学大学院環境学研究科・都市計画研究室

E-mail: urbanplanning.nu@gmail.com TEL: 052-789-3753